



- ❖ メキシコのチャパラ湖とその流域がその代表例であるが、湖沼、河川、沿岸流域が一体的に存在する水システム、すなわち静水・動水システムが相互に関連的に存在している流域の管理は、統合的水資源管理 (IWRM) や統合的河川流域管理 (IRBM) の概念的枠組みのみで十分に対応することは難しく、これらの概念に統合的湖沼流域管理 (ILBM) の概念を反映すること。
- ❖ 政策、組織・体制、流域関係者の参加、技術、情報、財政など ILBM の 6 つのガバナンスの柱などに関し、地域、国、国際レベルで、既存および将来生み出される知識や情報をまとめると共に、それらの課題をめぐる研究の推進、知識ベースの開発、研修機関の設立、大学のカリキュラムの開発などの課題への取組を相互に協力しつつ推進すること。
- ❖ 既存の拠点を強化し、新たな拠点を設立して、管轄を超えたケースや国際的な越境ケースなど湖沼流域管理の重要な相互関係のあらゆるレベルにおいて、ILBM を推進する上で重要な知識、経験、教訓を個別分野の専門家と先住民族を含む社会全般が相互に醸成していくこと。
- ❖ ラテンアメリカをはじめとする様々な地域の湖沼流域ネットワークにおいて、SDGs のテーマである人間の水の安全保障と生態系の健全性を効果的に結びつけるガバナンスの取組を促進し、知識と経験の共有を推進すること。
- ❖ ラテンアメリカ先住民族が湖沼とその流域の生態系サービスの享受に関して積み重ねてきた歴史的経験の継承を含め、統合的管理を促進する上で流域住民が果たす役割の重要性に鑑み、政策、戦略、規制、計画の策定と実施などの流域管理プロセスへ彼らが参画することの重要性を認識すること。
- ❖ 若者は、地域レベル、国レベル、国際レベルで持続可能な発展や環境保全の推進と、知識の共有、国内外の友好関係の構築、さらには湖沼が地球規模の健全性を追求する科学的・政策的取組の連携において重要な役割を担うべきであること。
- ❖ 湖沼とその流域の持続可能な管理（気候変動の影響を緩和するために湖沼が果たす役割、ポストコロナ期の経済回復を促進するための湖沼の潜在的な役割、および社会的、経済的、環境的指標としての役割を含む）に関連するガイドラインの策定と活動において市民参画が促進されるように市民科学を推進し、能力の向上を図ること。
- ❖ 湖沼管理の意思決定者及び管理者は、湖沼とその関連システムが直面している健康、汚染、富栄養化の課題に対応するための技術的能力を向上させ、また科学者、技術者、その他の技術的実践者は、科学に基づく管理決定および効果的な湖沼流域管理のために、関連する情報およびデータを理解しやすい言葉で伝える能力を向上させること。
- ❖ 人間の健康、福祉、経済発展、および気候変動の影響への対応に関して、湖沼が果たす重要な役割を具体的かつ継続的に認識させるために、国連による世界湖沼の日の制定に努めること。